



賢く 優しく 遅く

3月号・令和6年3月1日発行

本校URL <http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/>

武蔵村山市立第五中学校

「大器晩成」という言葉

校長 榎戸 千代子

梅の花も咲き誇り、春の訪れを感じるようになりました。3月5日（火）は、二十四節気の一つ、「啓蟄（けいちつ）」です。「啓」は、ひらく、「蟄」は、土の中で冬ごもりをしている虫のことです。気候が暖かくなって土を覆っていた雪も解け、冬眠していた生き物たちが地上に出てきて動き出す季節のことを表しています。いよいよ新しい世界が始まる時を迎えました。



さて、学校でも年度末となりました。各学年では卒業、進級に向けた準備を進めています。3年生の登校は卒業式まで、たったの12日です。この12日の中には、凝縮された授業や活動が詰まっています。全9教科の最後の授業、自分たちが3年間生活した校舎をきれいに掃除する奉仕活動、受験の体験や勉強方法を1、2年生にアドバイスする「進路の話を聞く会」、そして、何より重要な最後の儀式的行事である卒業式の練習など盛りだくさんです。卒業まで秒読みとなった一日一日を大切に過ごしてもらいたいと思います。

人生は「出会い」があるように、「別れ」もやってきます。しかし、また次の新たな「出会い」が始まるという繰り返しです。3年生にとって、第五中学校での3年間はどうか？ うまくいったこと、うまくいかなかったこと、様々なことがあったと思います。

人生は、いつも順風満帆な時ばかりではありません。いろいろな壁や困難に立ち向かわねばならない時もあります。そんな時、私は「大器晩成」という言葉に勇気をもらうことがあります。

「大器晩成」という言葉は、中国の老子（中国春秋時代、紀元前6世紀の哲学者）が書いたと言われる哲学書にあります。大きな器（うつわ）は、できあがるのに時間がかかることから、一般的には「偉大な人物は大成するのが遅い」という意味で用いられます。しかし、私自身はこれを「偉大な人物」とはとらえず、「大いなる成果、結果は、簡単には出ない。時間がかかる。」と解釈し、うまくいかず成果が出ない時の、自分を励ます言葉として大事にしてきました。日常生活の中では、その求められたときには、分からなかったり、できなかつたりしたことを、少し時間がたってから、そうだったのかと分かるようになっていたり、実際にできるようになったりすることがあります。人より遅くなくても、コツコツとあきらめずに努力していれば、次第に成果が現れ、将来のよい結果につながるということがあるということを、私自身何度も経験してきました。



新しい世界へ旅立つ3年生の皆さん、長い人生の中では、すぐに成果が出ないことはたくさんあります。でも、ちょっと立ち止まって、「大器晩成」という言葉を思い浮かべてみてください。そこで踏ん張って、あせらず、あきらめず、努力を続けてください。よい結果につながるものがたくさんあるはずですよ。そして、少し時間がかかっても自分の夢をかなえて欲しいと思います。新しい世界に一步を踏み出す皆さんに、「大器晩成」という言葉を贈ります。皆さんの今後の一層の活躍を期待しています。

卒業おめでとうございます！

3年生の保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。また、これまで第五中学校の教育活動に御理解、御協力をいただきありがとうございました。

1、2年生の保護者の皆様には、来年度も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。